

IDDNewsletter.....11

November
2024



特集

校外学習を終えて

専攻科情報デザイン科では、校内の施設設備では十分に学びを展開することが難しい事柄について、近郊の施設などのリソースを活用すべく、毎年、校外学習を実施しています。

今回の校外学習では、「500 m美術館」「ペーパーショップサクマ」様など、札幌市内中心部を中心に見学を実施しました。今回の活動の様子を御紹介します。

校外学習を終えて

専攻科情報デザイン科では、校内の施設設備では十分に学びを展開することが難しい事柄について、近郊の施設などのリソースを活用すべく、毎年、校外学習を実施しています。

今回の校外学習では、「500 m美術館」「ペーパーショップサクマ」様など、札幌市内中心部を中心に見学を実施しました。今回の活動の様子を御紹介します。

(1) 500m 美術館

1 軒目の見学先は、「500 m美術館」でした。この美術館は、札幌市営地下鉄大通駅とバスセンター前駅を結ぶコンコースを利用してアート作品を展示する施設です。



今回の展覧会の内容は、「The WALL vol.5 大西洋『元の素の謎を秘めた初源の森』と「アニマル・ネイチャー」でした。この作者の制作した作品や数多くの絵画が展示されており、学生は、画家がどのような想いで描いたのか等をイメージしながら、多数の作品を真剣に鑑賞している様子が見られました。

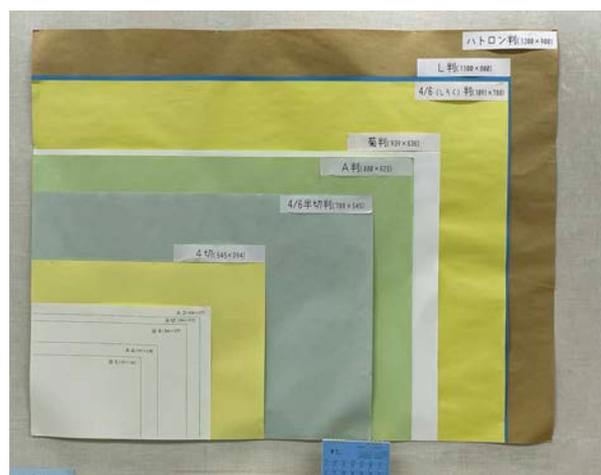
美術鑑賞を通じて様々な効果・メリットが出てきます。この効果・メリットの内容とは何でしょうか。それは、美術鑑賞を通して得られる各人の「気づき」であると考えます。今後、美術鑑賞をする機会があった際に、「なぜ描かれたのか」「制作にあたった方が鑑賞する皆さんに一番伝えたいことは何なのか」などを自分で想像しながら考察してほしいです。考察することで観察力、想像力、表現力がさらに向上することを期待しています。



(2) ペーパーショップサクマ

2 軒目の見学先は、「ペーパーショップサクマ」様でした。ペーパーショップサクマは、国内最大級の品揃えを誇る洋紙や情報用紙、特殊紙などの紙の小売店であります。

見学においては、担当者から、紙製品を扱う小売店舗での説明をいただき、店の歴史や商品の概要が紹介されました。紙の卸業は、1990年に開業し、小売店舗もこの場所で30年以上続いているそうです。主に印刷用紙の販売を行っており、一般向けにも、小売店舗での販売を通して様々な紙を提供している点が特徴です。



続いて、紙の厚みやサイズに関する説明があり、紙の厚さを「kg」で表現する「連量」という独特の方法が紹介されました。さらに、紙の「流れ目」についての説明が行われ、これは印刷や製本時に非常に重要な要素であると強調されました。

倉庫見学は、巨大な紙がどのように保管されているかがよくわかるものでしたが、湿度管理などの細かな配慮が必要であるそうです。特に見どころは、倉庫内の断裁機の操作方法のデモンストレーションで、紙の裁断に精密な作業が求められる様子が紹介されました。この機械は非常に古いようですが、それでも一度に大量の紙を正確にカットすることができ、長年使用されているそうです。



最後に、店内の特殊紙の展示を見学する時間が設けられました。店内は、色や模様、手触りが異なる紙が多数展示されており、デザイナーやクリエイターにとって魅力的な選択肢が豊富にそろっています。SDGsに配慮した製品として、野菜の繊維を使った紙や、環境に優しい素材が使われた製品も紹介されました。また、商品に実際に触れさせていただき、学生たちにとって非常に貴重な経験となったものと思います。

(3) 北海道造形美術学院

3軒目の見学先は、「北海道造形美術学院」様でした。同学院は、美大受験に向けた実技の指導に力を入れている美術予備校で、今回の見学では、私たちの学校で設定されている「デッサン」における作品の質の到達度を確認することが主な目的でした。



まず見学したのは、木大画（木炭紙大の画用紙）サイズのデッサン制作の授業でした。この日は、約15時間程度をかけて、学生の皆さんが構図や陰影、質感を意識しながら作品を仕上げていました。

次に見学したのは油彩画の授業です。この授業では、「円山動物園」をテーマに取材をもとにした作品制作が進められており、油絵や水彩画、粘土作品などを自由に表現する課題が出されていました。学生の皆さんは、各自が捉えた動物や自然の要素を、今後40時間ほどの制作時間をかけて描いていくそうです。

最後に、私たち学生との質疑応答の時間が設けられ、特に「質感表現」についての議論が展開されました。金属や木材といった異なる素材の質感を、視覚的にどのように再現するかという質問に対し、講師から「それは表面の問題。金属は見た目でその質感がわかるのは、表面の特徴を視覚的に正確に捉えているから」という具体的なアドバイスをいただきました。本校学生にとっても、質感表現の重要性を学ぶ貴重な機会となりました。

Contents

特集

校外学習を終えて

- 2-3 専攻科情報デザイン科では、校内の施設設備では十分に学びを展開することが難しい事柄について、近郊の施設などのリソースを活用すべく、毎年、校外学習を実施しています。
今回の校外学習では、「500 m美術館」「ペーパーショップサクマ」様など、札幌市内中心部を中心に見学を実施しました。今回の活動の様子を御紹介します。

Welcome to Information Design Department !!

北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」をお読みいただきありがとうございます。

本校情報デザイン科では広く全国から学生を受け入れています。聴覚障がいがあり、高等学校や中等教育学校等の修了生（卒業見込みを含む）であれば、どなたでも出願資格があります。年齢も不問です。

授業料がかからないことに加え、低コストで、専門的な知識や技術を学べます。支援制度については、就学奨励費等の帰省や通学、食事等に関わるものがあります。また、寄宿舎があり、道内外問わず入舎が可能ですし、土日祝日も開舎していますので遠方からの入舎も安心です。本校情報デザイン科に興味がある方は、ぜひ本校まで御連絡いただければと存じます。詳しくは、本校Webサイトの情報デザイン科のページを御覧ください。

○専攻科情報デザイン科への入学説明と個別懇談について

次年度の入学説明や個別懇談等を御希望される方がいらっしゃいましたら、都度対応させていただきます。専攻科入学選考事務局に御連絡ください。（担当：堀、桑原）



情報デザイン科学科だより

Information Design Department

IDDNewsletter

October 2024

IDDNewsletter November 2024

発行人／北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」編集チーム

発行／北海道高等聾学校

〒041-0261 北海道小樽市銭函1丁目5-1

www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp

※ご意見、ご要望などにつきましては、上記 Web ページより電子メールでご連絡ください。